



エンド・ツー・エンドのイノベーションにより 成長を推進



2021年11月18日（日本時間）
2021年11月17日（米国東部時間）

Better Health, Brighter Future

免責事項



重要な注意事項

本注意事項において、「プレゼンテーション (presentation)」とは、本プレゼンテーションにおいて武田薬品工業株式会社（以下、「**武田薬品**」）によって説明又は配布された本書類、口頭のプレゼンテーション、質疑応答及び書面又は口頭の資料を意味します。本プレゼンテーション（それに関する口頭の説明及び質疑応答を含みます）は、いかなる法域においても、いかなる有価証券の購入、取得、申込み、交換、売却その他の処分の提案、案内若しくは勧誘又はいかなる投票若しくは承認の勧誘のいずれの一部を構成、表明又は形成するものではなく、またこれを行うことを意図しておりません。本プレゼンテーションにより株式又は有価証券の募集を公に行うものではありません。米国 1933 年証券法に基づく登録又は登録免除の要件に従い行うものを除き、米国において有価証券の募集は行われません。本プレゼンテーションは、（投資、取得、処分その他の取引の検討のためではなく）情報提供のみを目的として受領者により使用されるという条件の下で（受領者に対して提供される追加情報と共に）提供されております。当該制限を遵守しなかった場合には、適用のある証券法違反となる可能性がございます。

武田薬品が直接的に、又は間接的に投資している会社は別々の会社になります。本プレゼンテーションにおいて、「武田薬品」という用語は、武田薬品及びその子会社全般を参照するものとして便宜上使われていることがあります。同様に、「当社 (we, us及びour)」という用語は、子会社全般又はそこで勤務する者を参照していることもあり得ます。これらの用語は、特定の会社を明らかにすることが有益な目的を与えない場合に用いられることもあり得ます。

本資料に記載されている製品名は、武田薬品または各所有者の商標または登録商標です。

将来に関する見通し情報

本プレゼンテーション及び本プレゼンテーションに関して配布された資料には、武田薬品の見積もり、予測、目標及び計画を含む当社の将来の事業、将来のポジション及び業績に関する将来見通し情報、理念又は見解が含まれています。将来見通し情報は、「目標にする (targets)」、「計画する (plans)」、「信じる (believes)」、「望む (hopes)」、「継続する (continues)」、「期待する (expects)」、「めざす (aims)」、「意図する (intends)」、「確実にする (ensures)」、「だろう (will)」、「かもしれない (may)」、「すべきであろう (should)」、「であろう (would)」、「することができた (could)」、「予想される (anticipates)」、「見込む (estimates)」、「予想する (projects)」などの用語若しくは同様の表現又はそれらの否定表現を含むことが多いですが、それに限られるものではありません。これら将来見通し情報は、多くの重要な要因に関する前提に基づいており、実際の業績は、将来見通し情報において明示又は暗示された将来の業績とは大きく異なる可能性があります。その重要な要因には、日本及び米国の一般的な経済条件を含む当社のグローバルな事業を取り巻く経済状況、競合製品の出現と開発、世界的な医療制度改革を含む関連法規の変更、臨床的成功及び規制当局による判断とその時期の不確実性を含む新製品開発に内在する困難、新製品および既存製品の商業的成功の不確実性、製造における困難又は遅延、金利及び為替の変動、市場で販売された製品又は候補製品の安全性又は有効性に関するクレーム又は懸念、新規コロナウイルス・パンデミックのような健康危機が、当社が事業を行う国の政府を含む当社とその顧客及び供給業者又は当社事業の他の側面に及ぼす影響、買収対象企業とのPMI（買収後の統合活動）の時期及び影響、武田薬品の事業にとっての非中核事業を売却する能力及びかかる資産売却のタイミング、当社のウェブサイト(<https://www.takeda.com/investors/reports/sec-filings/>)又はwww.sec.govにおいて閲覧可能な米国証券取引委員会に提出したForm 20-Fによる最新の年次報告書及び当社の他の報告書において特定されたその他の要因が含まれます。武田薬品は、法律や証券取引所の規則により要請される場合を除き、本プレゼンテーションに含まれる、又は当社が提示するいかなる将来見通し情報を更新する義務を負うものではありません。過去の実績は将来の経営結果の指針とはならず、また、本プレゼンテーションにおける武田薬品の経営結果は武田薬品の将来の経営結果又はその公表を示すものではなく、その予測、予想、保証又は見積もりではありません。

国際会計基準に準拠しない財務指標

本プレゼンテーションには、実質的な売上収益、Core営業利益、実質的なCore営業利益、Core純利益、実質的なCore EPS、純有利子負債、EBITDA、調整後EBITDA、フリー・キャッシュ・フローのように、IFRSに準拠しない財務指標が含まれています。当社役員は業績評価並びに経営及び投資判断を、IFRS及び本プレゼンテーションに含まれるIFRS以外の指標に基づき行っています。IFRSに準拠しない財務指標においては、最も近いIFRS財務指標では含まれることとなる、又は異なる数値となる一定の利益、コスト及びキャッシュ・フロー項目を除外しております。IFRSに準拠しない財務指標を提供することで、当社役員は、投資家の皆様に対し、当社の経営状況、主要な業績及び動向の更なる分析のための付加的な情報を提供したいと考えております。IFRSに準拠しない財務指標は、IFRSに準拠するものではなく、付加的なものであり、また、IFRSに準拠する財務指標に代替するものではありません（IFRSに準拠する財務指標を「財務ベース」指標として参照している場合があります）。投資家の皆様におかれましては、IFRSに準拠しない財務指標につき、本プレゼンテーションの53ページに記載した、これらに最も良く対応するIFRS準拠財務指標との照合を行っていただけますようお願い申し上げます。

医療情報

本プレゼンテーションには、製品についての情報が含まれておりますが、それらの製品は、すべての国で発売されているものではありませんし、また国によって異なる商標、効能、用量等で販売されている場合もあります。ここに記載されている情報は、開発品を含むいかなる医療用医薬品の効能を勧誘、宣伝又は広告するものではありません。



ウェルカム & イントロダクション

プラズマ ディライブド セラピーズ
プレジデント

ジュリー・キム



Better Health, Brighter Future

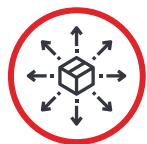
血漿分画製剤に特化したビジネスユニットは、
患者さんの生活を変革します



▶ **成長を加速させるため、
意欲的な長期戦略目標を設定**



▶ **血漿分画製剤の事業運営・能力を
向上させることにコミット**



▶ **2023年度末までに、血漿収集量と製造能力を
65%以上増加させる目標を設定***



血漿分画製剤に特化したビジネスユニットは、 患者さんの生活を変革します



長期戦略目標に向けて順調に進捗

- 2020年度の実質的な売上収益成長率*は、それぞれ免疫グロブリンポートフォリオが16%、血漿分画製剤ポートフォリオ全体が6%



変革による成長の加速:

- データ、デジタルおよびクラウドテクノロジーの活用により、ドナーの採漿体験が向上



- 2023年度末**までに**血漿収集量と製造能力を65%以上向上させるという目標**に向けて順調に進捗

順調に進捗

血漿分画製剤事業の一桁台半ばの成長*
という2021年度のガイダンス達成に向けて

*実質的な売上収益成長の定義については、53ページをご参照下さい。

**対2018年ベースライン

出典：社内資料



血漿分画製剤市場は独特で大きな成長機会が存在



重要な特徴



供給は
血漿収集量に依存



資本集約型で
複雑な製造工程



血漿の
連産構造



歴史的に
変革が少ない

そして
魅力的な成長機会

1

製品の
ライフサイクルは
数十年単位

2

適応**拡大**と
地理的**拡大**

3

通常
パテントクリフの
影響を受けない

4

研究開発の
成功確率が
比較的高い

5

市場の需要は
安定的、
継続的に**成長**

逆風が強まり、変化を加速させる重要な機会が到来



血漿収集量の**大幅な減少**、供給の不確実性

血漿収集量の低下を補うための**費用の増加**

システム全体の**脆弱性**を露呈

新たな**革新的治療薬**の可能性（例：抗FcRn製剤）

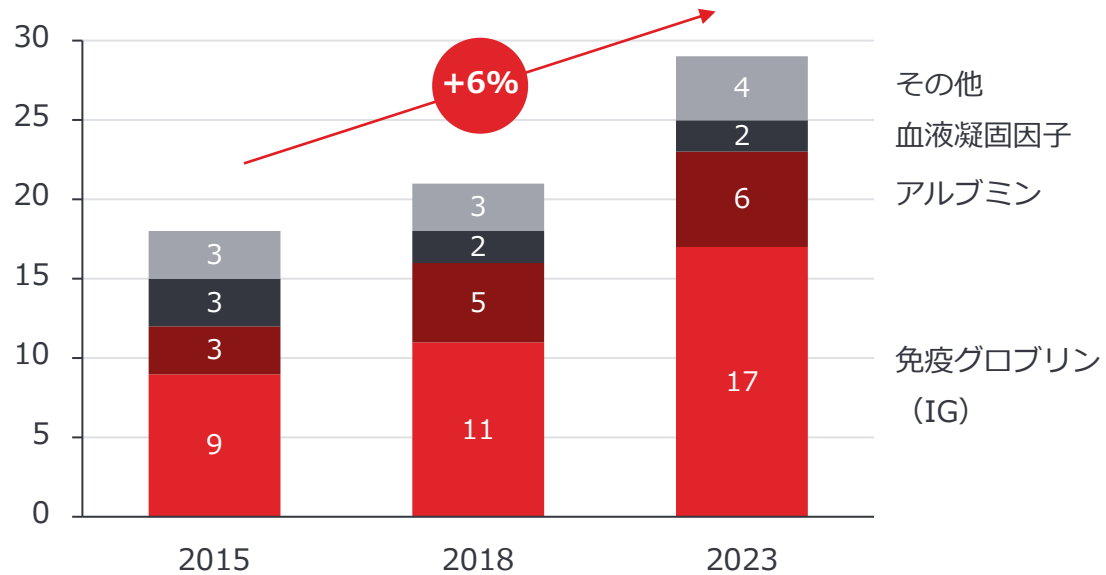


- ➡ 血漿に対する**社会的関心の高まり**
- ➡ **政策**や規制に関する対話への**柔軟な姿勢**
- ➡ **革新的なデジタルプログラム**の加速
- ➡ **業界内での連携強化**

一部の適応症で開発中の治療薬の影響を受ける可能性があるものの、 長期的な市場成長の可能性は依然として高い

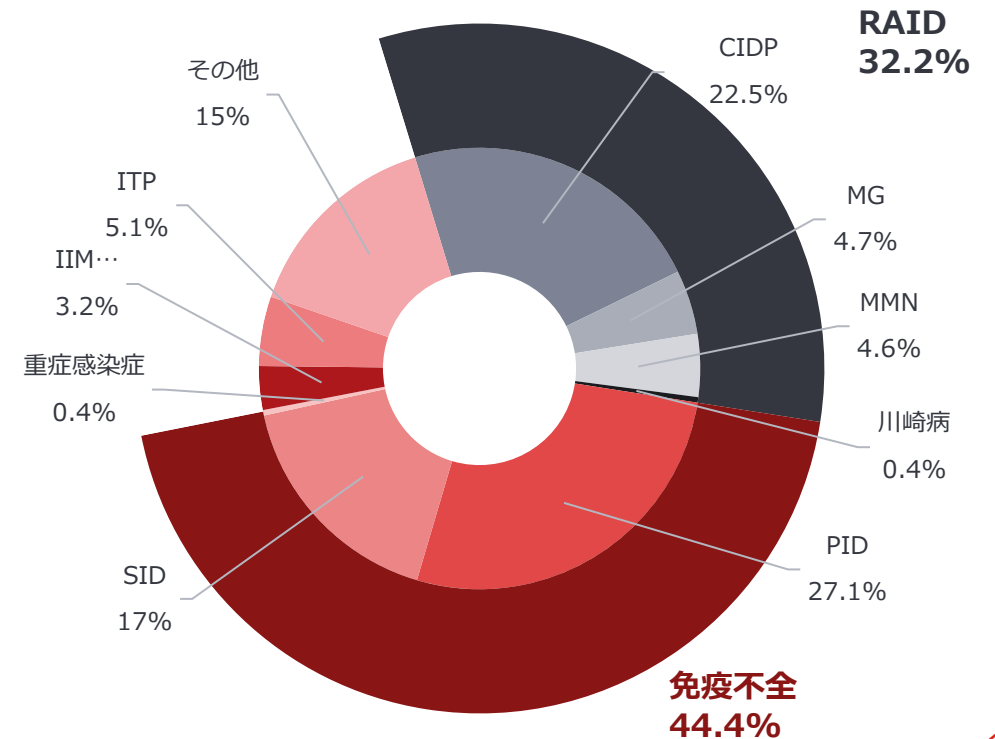


血漿分画製剤への世界的な需要は、年々増加し続ける予定



世界の血漿製剤市場（10億米ドル）、2015～23年

世界の免疫グロブリン製剤使用量の推定 適応症および領域別（2019年）

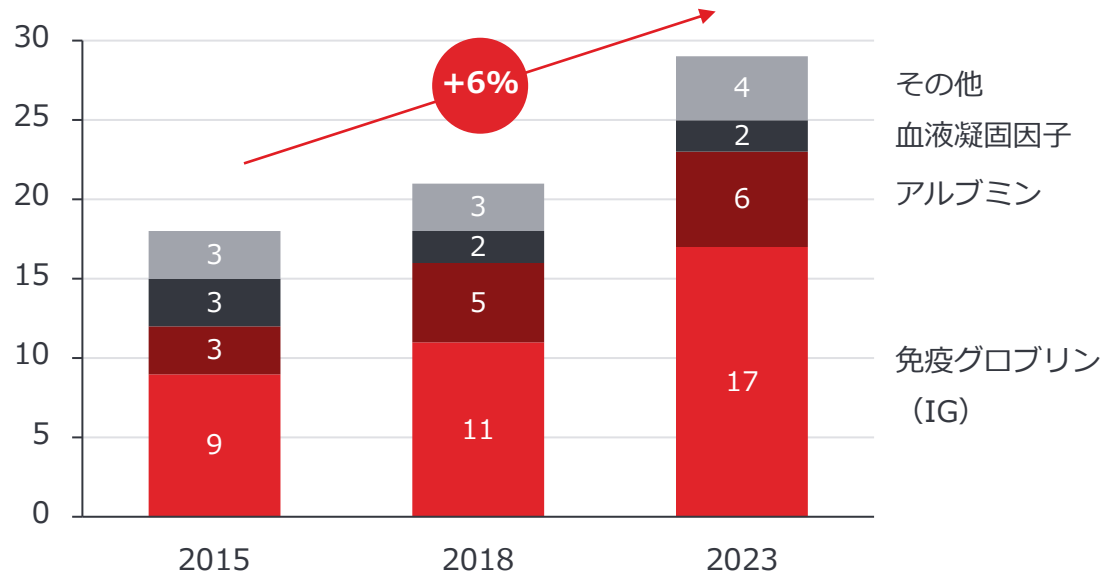


CIDP = 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、MG = 重症筋無力症、MMN = 多巣性運動ニューロパチー、PID = 原発性免疫不全、SID = 続発性免疫不全、ITP = 特発性血小板減少性紫斑病、IIM = 特発性炎症性筋障害、RAID = 希少自己免疫疾患

一部の適応症で開発中の治療薬の影響を受ける可能性があるものの、 長期的な市場成長の可能性は依然として高い

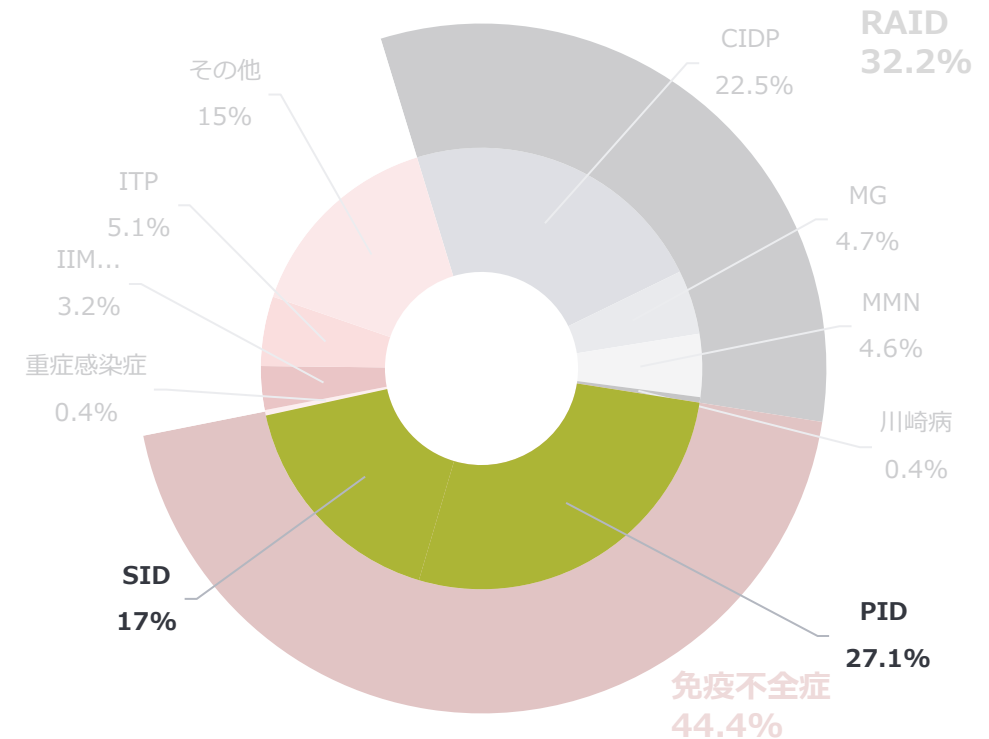


血漿分画製剤への世界的な需要は、年々増加し続ける予定



世界の血漿製剤市場（10億米ドル）、2015～23年

作用機序の観点からPIDやSIDへの影響なし

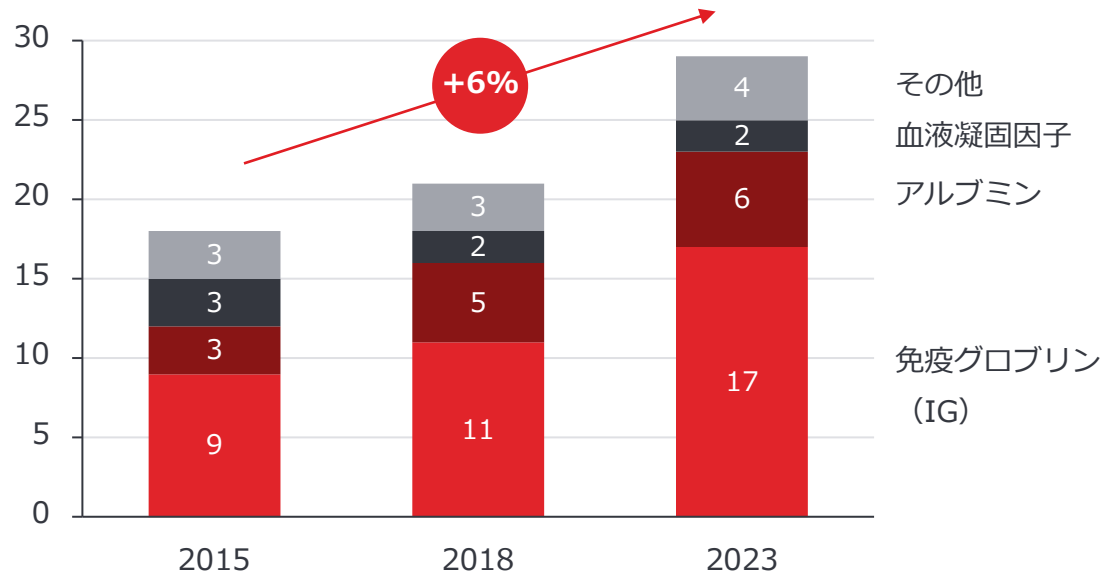


CIDP = 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、MG = 重症筋無力症、MMN = 多巣性運動ニューロパチー、PID = 原発性免疫不全、SID = 続発性免疫不全、ITP = 特発性血小板減少性紫斑病、IIM = 特発性炎症性筋障害、RAID = 希少自己免疫疾患

一部の適応症で開発中の治療薬の影響を受ける可能性があるものの、 長期的な市場成長の可能性は依然として高い

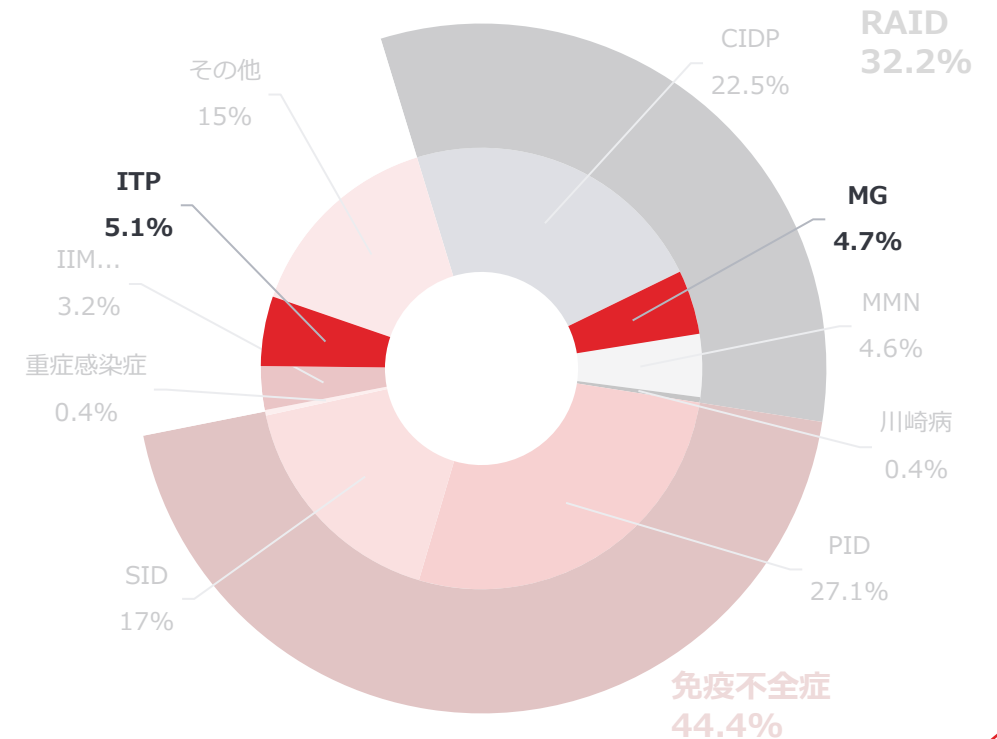


血漿分画製剤への世界的な需要は、年々増加し続ける予定



世界の血漿製剤市場（10億米ドル）、2015～23年

潜在的な影響は、特定の疾患領域に限定されており、 IG使用の10%未満を占める

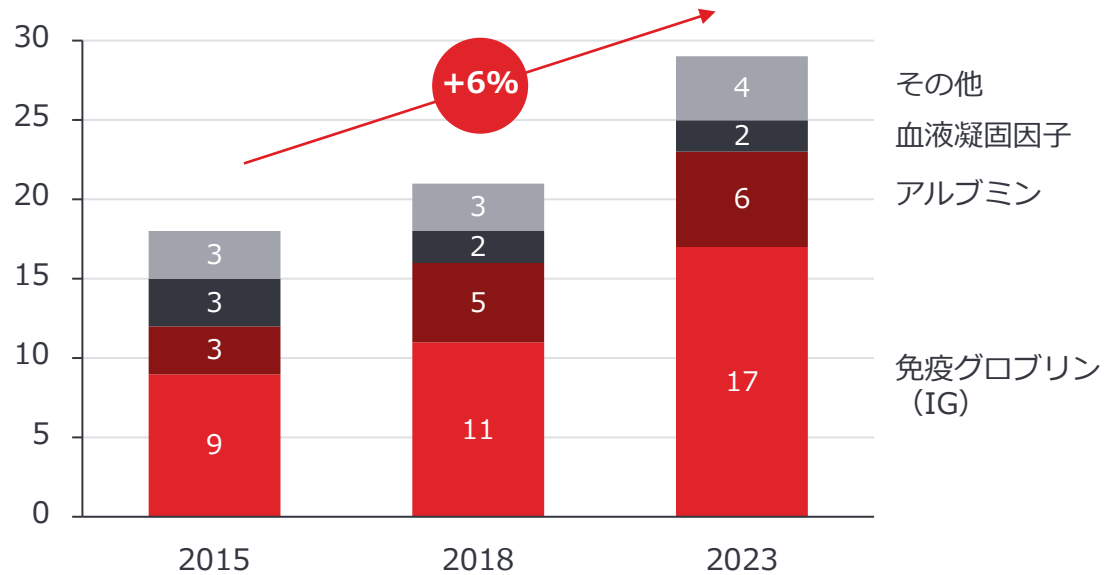


CIDP = 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、MG = 重症筋無力症、MMN = 多巣性運動ニューロパチー、PID = 原発性免疫不全、SID = 続発性免疫不全、ITP = 特発性血小板減少性紫斑病、IIM = 特発性炎症性筋障害、RAID = 希少自己免疫疾患

一部の適応症で開発中の治療薬の影響を受ける可能性があるものの、 長期的な市場成長の可能性は依然として高い

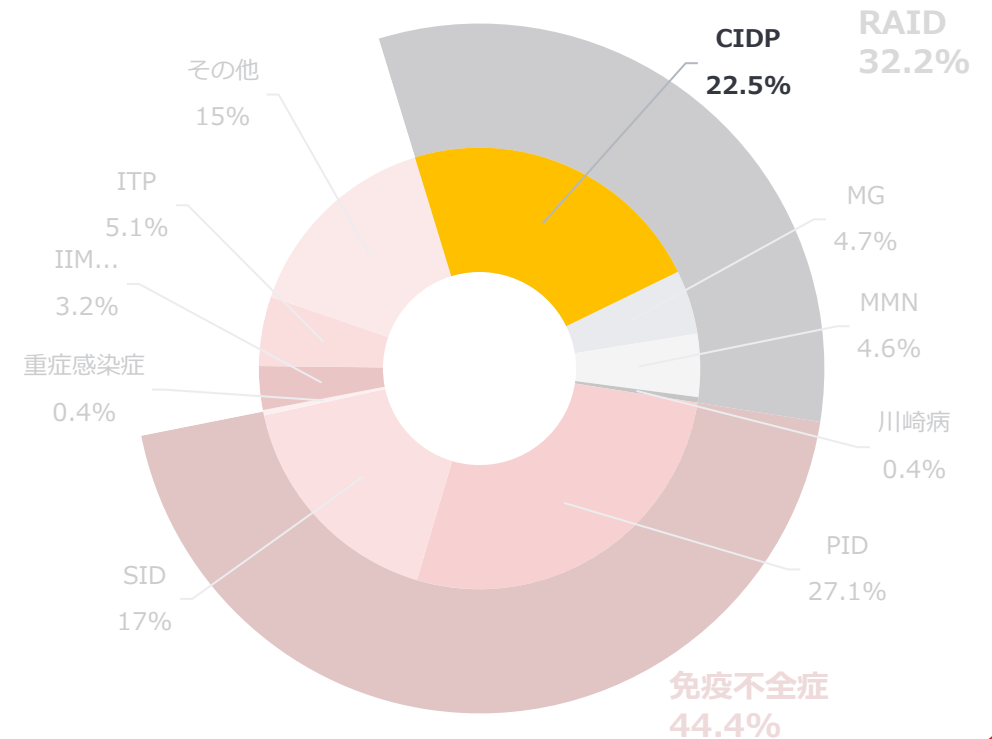


血漿分画製剤への世界的な需要は、年々増加し続ける予定



世界の血漿製剤市場（10億米ドル）、2015～23年

CIDPにおける部分的な影響の可能性 – 不均一性を示す疾患領域では免疫グロブリンが依然として 重要な役割を担う

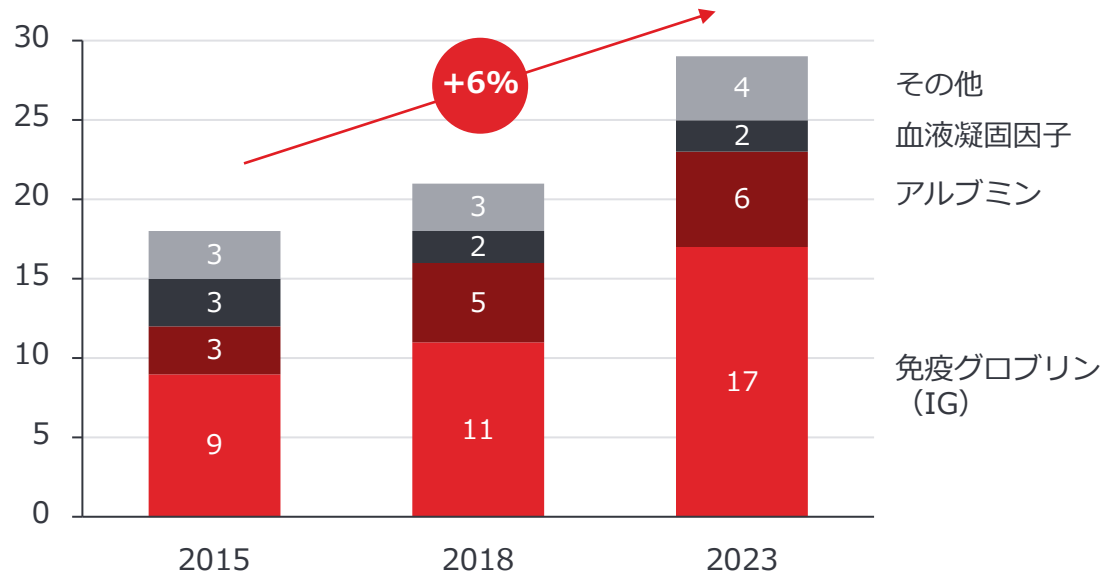


CIDP = 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、MG = 重症筋無力症、MMN = 多巣性運動ニューロパチー、PID = 原発性免疫不全、SID = 続発性免疫不全、ITP = 特発性血小板減少性紫斑病、IIM = 特発性炎症性筋障害、RAID = 希少自己免疫疾患

一部の適応症で開発中の治療薬の影響を受ける可能性があるものの、 長期的な市場成長の可能性は依然として高い

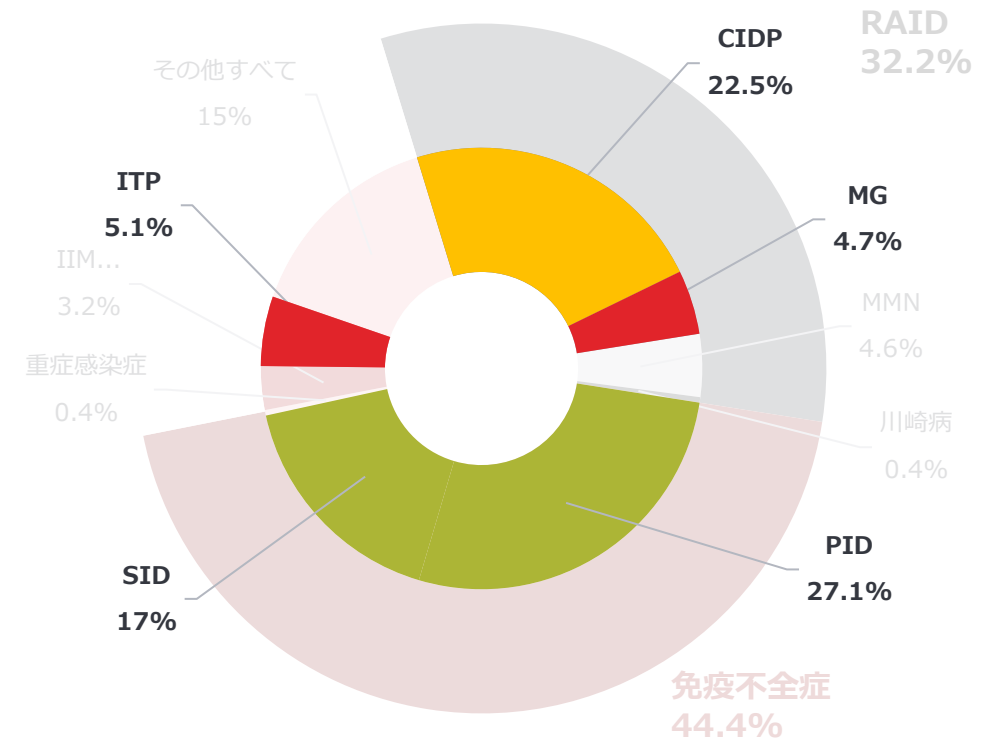


血漿分画製剤への世界的な需要は、年々増加し続ける予定



世界の血漿製剤市場（10億米ドル）、2015～23年

免疫グロブリン市場は、抗FcRn製剤等の革新的な新薬候補の 潜在的な浸透を上回るペースで成長する見通し



CIDP = 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、MG = 重症筋無力症、MMN = 多巣性運動ニューロパチー、PID = 原発性免疫不全、SID = 続発性免疫不全、ITP = 特発性血小板減少性紫斑病、IIM = 特発性炎症性筋障害、RAID = 希少自己免疫疾患

当社の実績は予期せぬ困難な状況においても目標達成に向けて順調に進捗

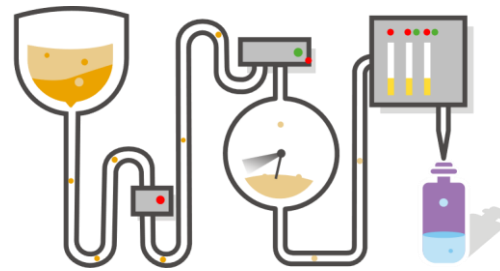


ドナー

血漿収集



製造



ポートフォリオ



患者さん

事業運営 および供給



- 2018年度以降、70以上の血漿収集拠点を追加
- ドナーの増加とエンゲージメント
- 2020年度は、パンデミックによる血漿収集量の減少を△11%に留める
- パンデミック以前の血漿収集量を継続して上回る

- 設備投資費の約60%を戦略的な供給能力へ
- プロセスおよび生産性の最適化
- 2018年度から現在までに、免疫グロブリン製剤の製造効率が3%以上向上
- 安定供給の維持

- ラスト・リットル製品ポートフォリオの成長
- 2020年度の皮下注用免疫グロブリン製剤（SCIG）の実質的な売上収益*は21%成長
- ファースト・リットル製品ポートフォリオに注力
- パイプラインおよびポートフォリオの進展



患者さん目線に立った 事業戦略

プラズマ ディライブド セラピーズ
ストラテジー&マーケティング ヘッド

ダイナ・メンデンホール



Better Health, Brighter Future

**当社の事業戦略と
目的に沿った成長は
患者さん中心という
考えに基づく**



当社の戦略は、現在および将来の患者さんのニーズに対応



血漿分画製剤事業（PDT）の強い意志

血漿収集から製品供給における
イノベーションと持続可能な事業運営を通じ、
患者さんの人生に変革をもたらす

既存事業 の最適化



A ラスト・リットル製品の成長



B ファースト・リットル製品の成長



C 事業運営の効率化

より多くの 患者さんに 製品を届けるため 計算された投資



D 製造および血漿収集における
革新的な技術



E 地理的拡大および新たな提携



F 変革をもたらす研究開発

差別化された幅広い免疫グロブリン製剤ポートフォリオにより、患者さんにより個別化された治療選択肢を提供することでラスト・リットル製品の成長を促進



差別化ポイント

潜在的な成長ドライバー



- 低IgA含有量静注用免疫グロブリン（IVIG）IgA過敏症患者さんに対する唯一のIG製剤

- 第2世代Gammagard S/DであるTAK-880の上市



- 静注用免疫グロブリン（IVIG）ブランドの根幹
- 米国で過去15年間に最も使用されたIG製剤*
- MMNの治療薬として初めて承認された製剤

- MMNおよびCIDPの適応
- ターゲットを定めた地理的拡大



- 良好な忍容性プロファイルが確立された20%皮下注用免疫グロブリン（SCIG）であり、ベストインクラスのペイシェント・エクスペリエンス

- PIDにおけるさらなる成長
- ターゲットを定めた地理的拡大
- 小児および若年層に注力



- 静注用製剤と皮下注用製剤の両方のメリットを享受できる、月1回投与の皮下注用免疫グロブリン製剤（SCIG）
- 病院、自宅のどちらにおいても投与可能
- 欧州では、SIDにおいて最も幅広い適応

- 米国における小児PIDの適応
- 米国および欧州におけるMMNおよびCIDPの適応
- 欧州およびその他の地域におけるSIDの適応
- 米国および欧州における投与デバイスHyHubの導入
- ターゲットを定めた地理的拡大

ポートフォリオの成長

- ✓ 統合的な治療ソリューションにより、診断までの時間を短縮し、ペイシェント・エクスペリエンスを変革
- ✓ 様々な属性の患者さんのニーズに対応するための適応拡大
- ✓ 患者さんの治療アクセス向上のためのターゲットを定めた地理的拡大

*集計分析に基づく。

**実質的な売上収益成長の定義については、53ページをご参照下さい。

出典：MRB IG予測～2027年

IG＝免疫グロブリン、MMN＝多巣性運動ニューロパチー、SID＝続発性免疫不全症、CIDP＝慢性炎症性脱髄性多発神経炎、PID＝原発性免疫不全症

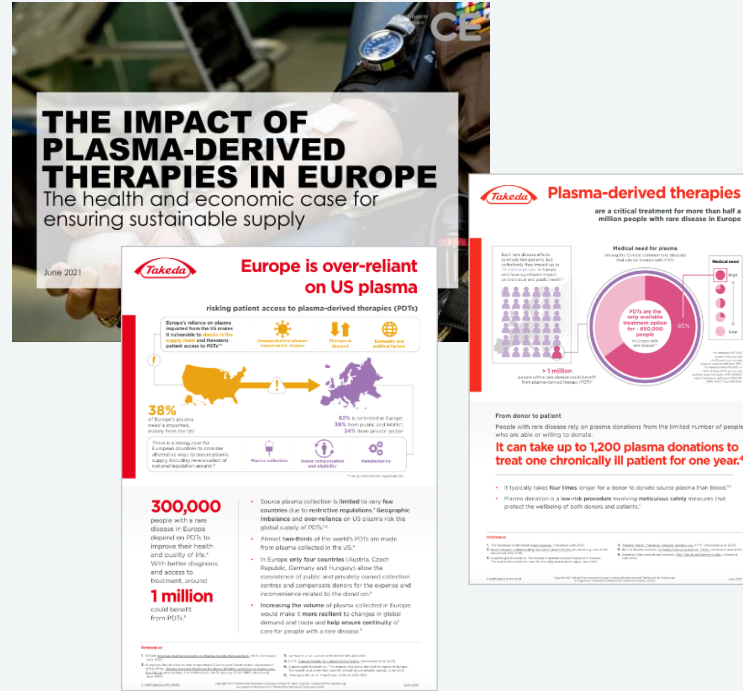
当社は、血漿分画製剤へのアクセスを向上し、より多くの患者さんの人生を変えうる血漿ビジネスのエコシステムの変革をリード



Working Together to Fight COVID-19 with Immunoglobulin (Ig) Therapy



政策や規制の変更



エビデンスに基づく
アドボカシー



業界主導型のサステナビリティ
に向けて積極的に行動



より多くの血漿は、より多くの治療に繋がる



差別化された ドナーの採漿体験を通じ より多くの患者さんへ 治療薬を提供

グローバル BioLife ヘッド
ヘマ・トールマン



Better Health, Brighter Future

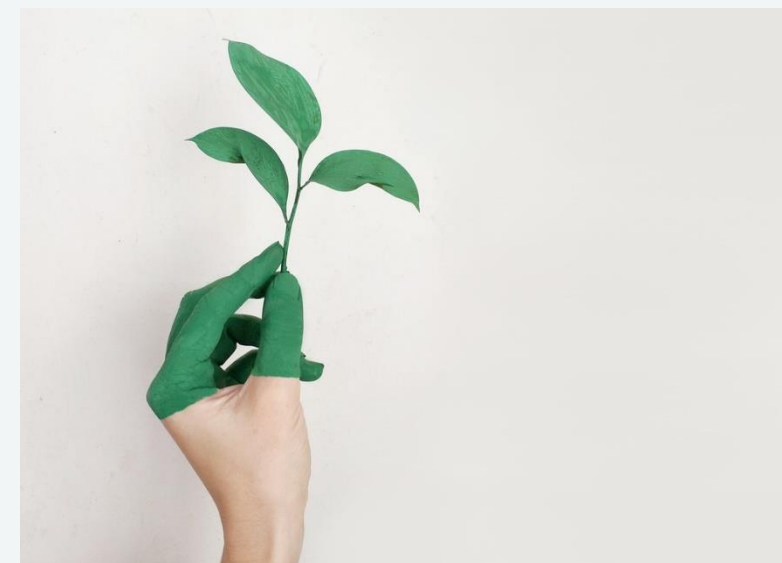
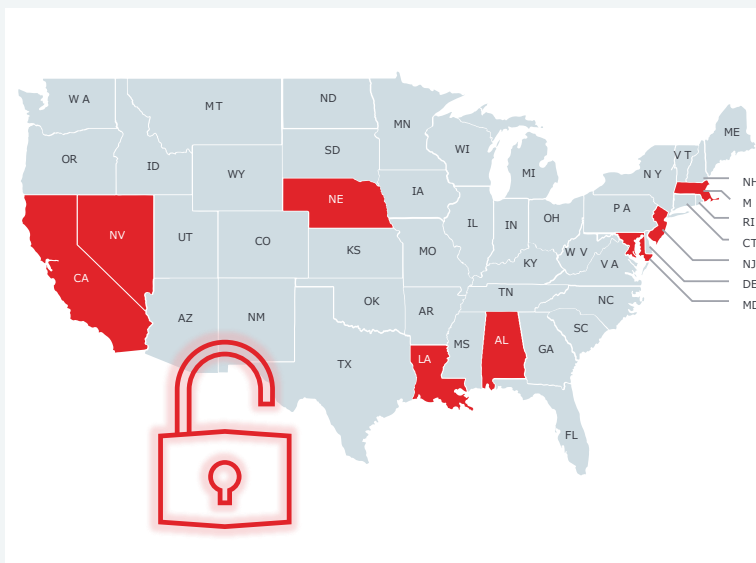
BioLifeでは、高まる患者さんのニーズに応えるため、
血漿収集プロセス全体にわたり卓越したサービス提供に注力



より多くの患者さんを救うため、より多くの地域でドナーにアプローチできるよう
責任感を持って迅速にグローバル規模で活動を拡大



業界内で模範を示しながら、長期的な成長に対する需要に応えている



迅速なグローバル展開

2018年度以降、すでに約70の拠点を追加し、
2021年度末までにグローバルで200センター
以上の血漿収集拠点を確保する予定

新たな州へ進出

米国35州に血漿収集センターを有しており、
さらに多くの血漿を収集するため
複数の州規制当局と協議中

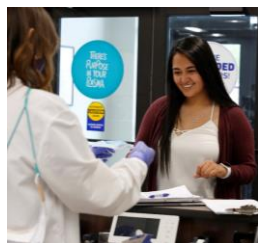
地球へのコミットメント

BioLifeの米国新拠点はすべてオール電化の予定
すべての拠点において、
2030年までに廃棄物の埋立処分ゼロ

より多くのドナーに選ばれるために、差別化され卓越した採漿体験を提供すべく、あらゆる血漿収集プロセスの段階でイノベーションを起こす



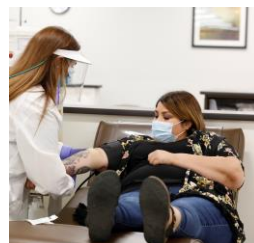
初回の予約
の通知



チェックイン



ドナーへの
説明



血漿収集



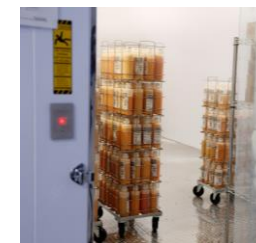
チェックアウト



フォロー
アップ・
顧客維持

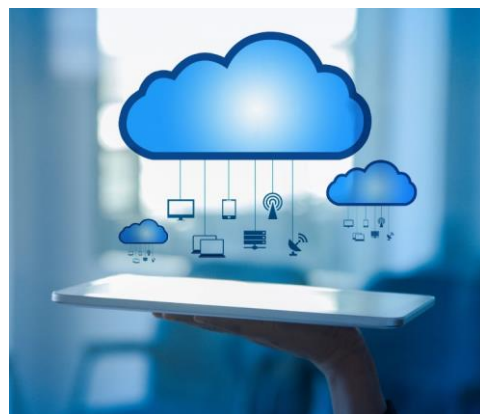


血液サンプル
の管理



血漿ユニット
管理

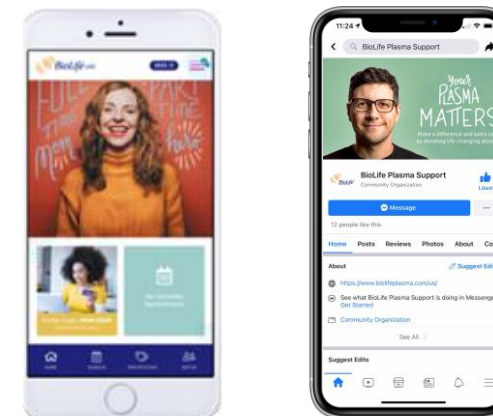
クラウドから得られる洞察



オムニチャネルを通じたアプローチ



ドナー用デジタルツールの強化



2019年度以降、ネットワーク全体でドナー数が21%増加

時間とコストを削減し、プロセスを最適化することは、
最終的により迅速に患者さんへ治療薬を届けることに繋がる



サプライチェーンにおけるエンド・ツー・エンドの大幅な効率改善



在庫確保を加速

収集した血漿を、
血漿収集センターと物流倉庫から
より迅速に運搬するためにプロセスを改善



物流ルートの変更

物流業者のルートを変更することにより、
出荷までのリードタイムを短縮



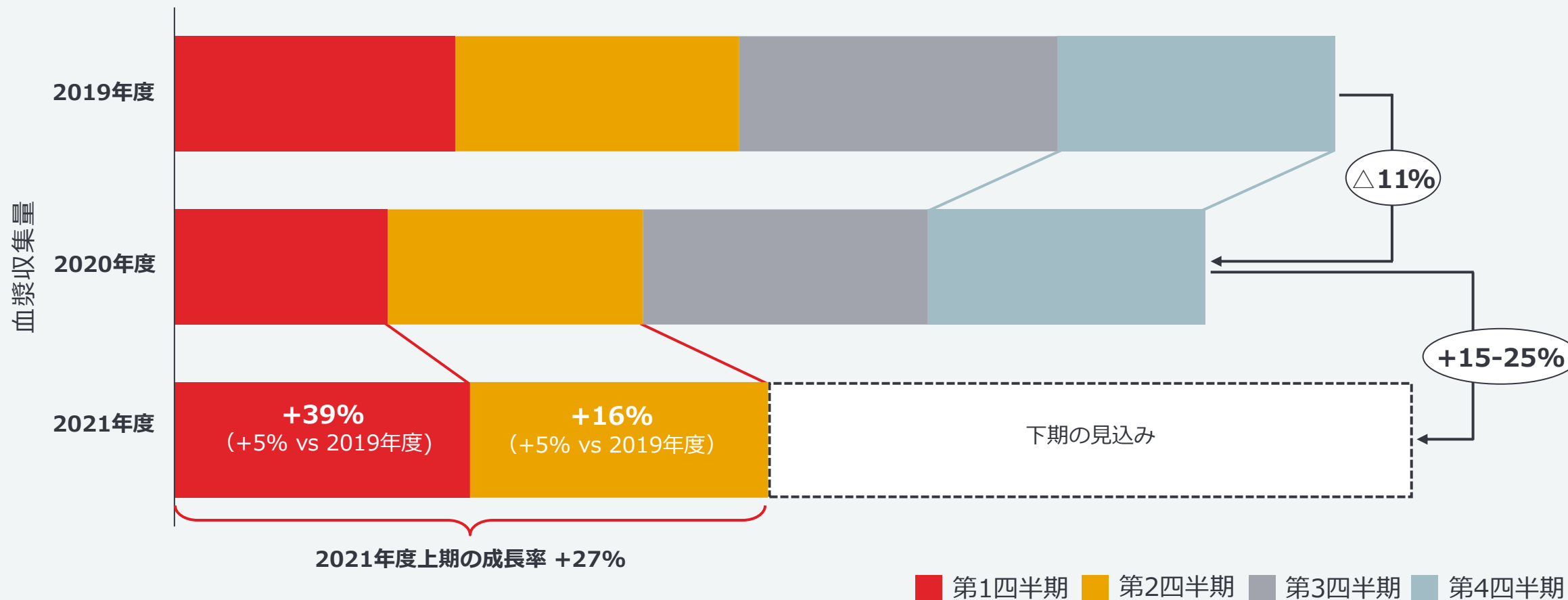
プロセスの効率化

輸入書類の手続きおよび待機時間の改善

2021年度第1四半期より、既にパンデミック以前の血漿収集量を継続して上回る



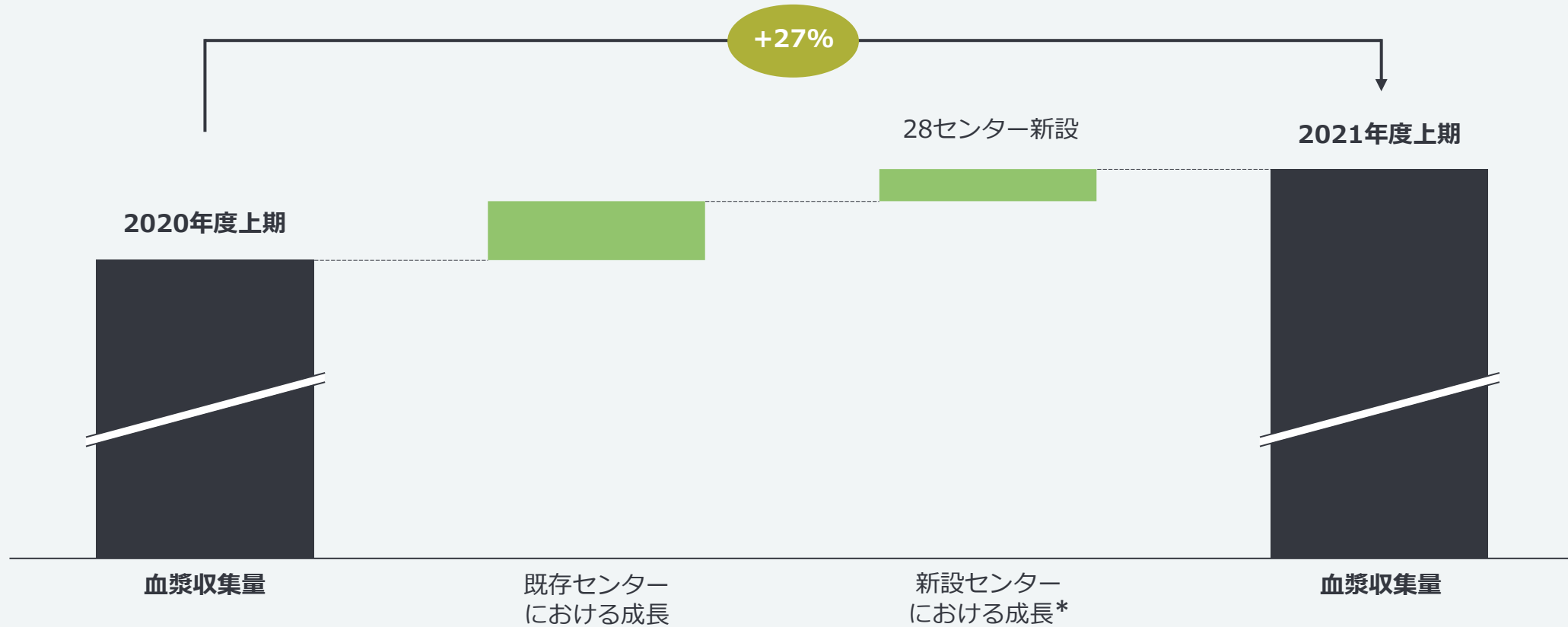
パンデミックによりもたらされた障壁を克服し、血漿収集量は早期に回復



血漿収集量の成長は既存センターと新設センターの双方から実現



血漿収集量の成長率（既存/新設） | 2021年度上期



*新設センターにおける成長とは、2020年度上期から2021年度上期にかけて開設した28のセンターによる収集量貢献を意味します。

「People、Patient、Planet」へのフォーカスに支えられ、 拡大、変革、最適化によって、当社の継続的な成長を推進



事業の継続性



従業員とのエンゲージメント および人材の確保



ドナーを獲得、維持するため データとデジタルによる アプローチ



運営の効率化

WHAT

- COVID-19や厳しい天候に関わらず、血漿収集センターは稼働を継続
- 採用目標を達成
- 業界平均を大きく下回る離職率
- 生産性レベルを維持
- 迅速かつターゲットを絞ったアプローチと、安全で安心感のあるドナーの採漿体験
- よりCO2排出を抑え、コスト削減および迅速な意思決定・プロセス・供給の迅速化

HOW

- 計画通りに血漿収集センターを新設
- 専任の危機管理対応チームおよび血漿収集量回復チームの設置
- 厳重な安全対策－スクリーニングおよび施設レイアウトの再設計
- 社内コミュニケーションの増加
- 新しい業務手順に対する迅速なトレーニングと展開
- 賞賛の機会を増加
- クラウドとデータに基づく投資はダイナミックな市場とドナーの洞察を捉え、迅速な対応を実現
- 予約を原則としたスケジュール管理
- 個別化およびデジタル化されたエンド・ツー・エンドの採漿体験を実現
- 幅広いドナー層および多様な市場に合わせたドナーへのアプローチ
- 全センターがクラウドに移行
- 在庫確保の加速
- 物流ルート改善
- プロセスの効率化



安定供給を実現するための 製造部門の変革

グローバル マニュファクチャリング & サプライ
プラズマ オペレーティング ユニット ヘッド

エイドリアン・マーフィー



ドナーから患者さんへの血漿の管理を徹底し、安全で有効な治療薬の高品質な生産を確保



1 血漿収集



2 納入・活用



3 分離



6 包装・供給



5 充填

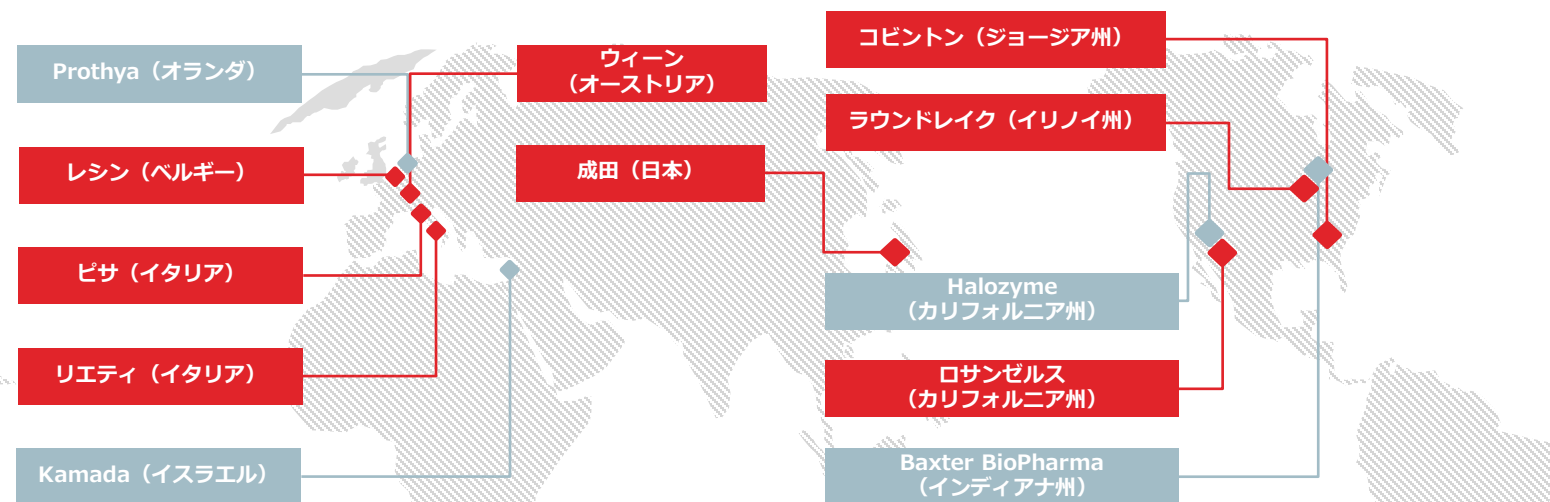


4 精製



複雑で、資本集約型の製造工程には7～12カ月を要する

当社の世界レベルでの事業運営により、 高品質な血漿分画製剤を世界中の患者さんに安定的に提供



8つの戦略的製造拠点

それに加え4つの戦略的パートナーにより、安定した途切れることのない製造体制を実現

イノベーションの精神

より早く患者さんに製剤を提供するため、デジタル化と運営方法を絶えず向上

持続的な投資

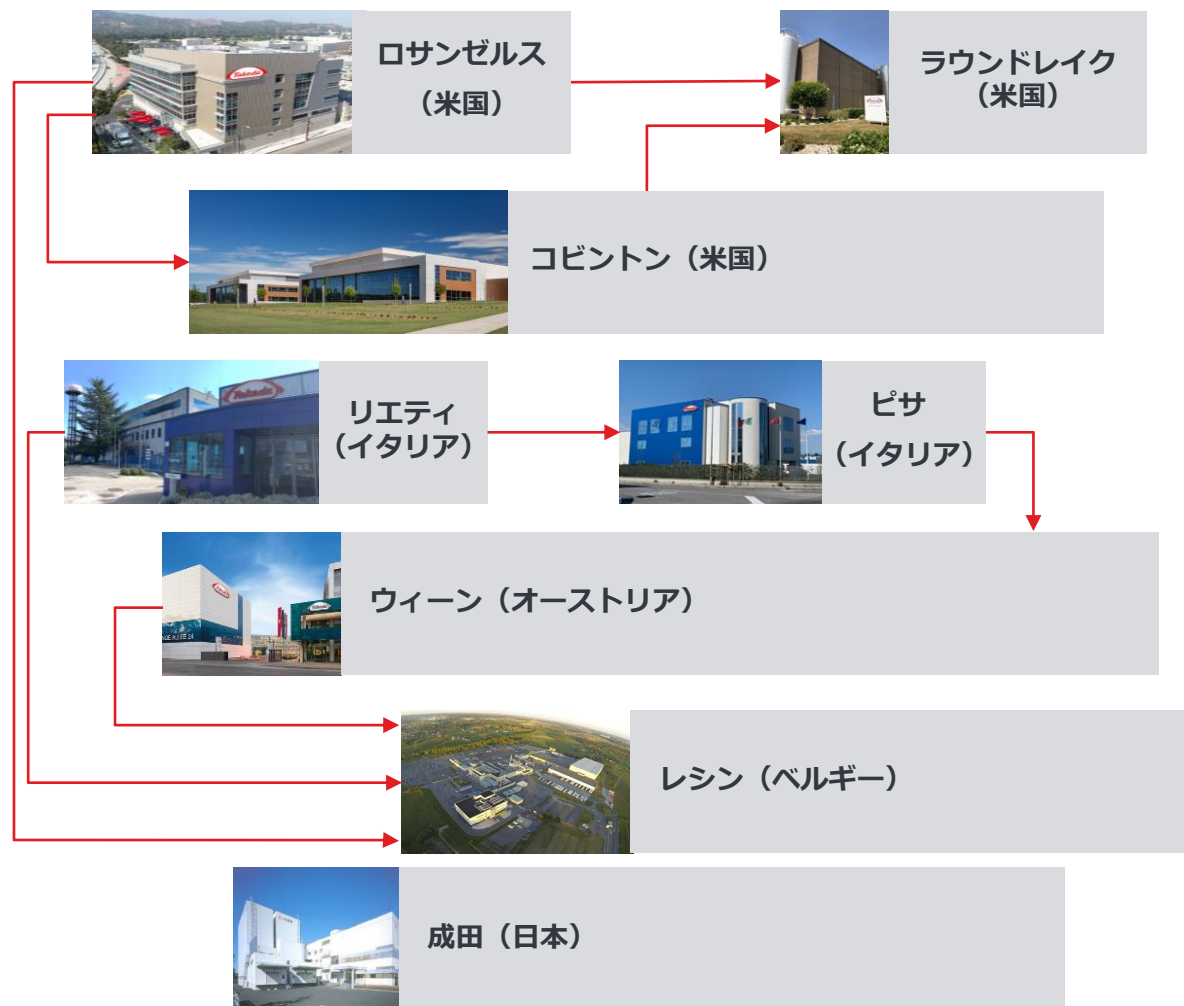
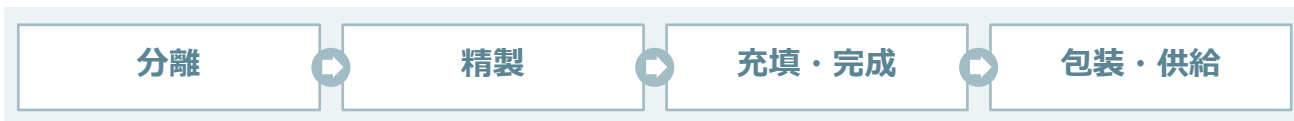
最高位の品質基準を満たした既存の最先端施設へのさらなる投資

持続的な生産能力の拡大

効率化を推進しながら市場成長に対応するため、当社の20を超える製品の生産を増加



より多くの患者さんが継続して治療を受けられるように、 各製造施設の製造能力を継続して向上させる



	追加の約1,200万バイアルのために アルブミンの自動充填ラインを新設
	ヒトヒアルロニダーゼ (PH20) に 関する米国FDA承認の技術移転により、 HyQviaの供給確保
	より多くの α -1アンチトリプシン 欠乏症の患者さんに貢献するための 新たなGlassia製造施設
	日本における患者さんのための 国内製造拠点 (成田) の統合

「Factories of the Future」プログラムを通じ、 製造能力拡大の価値を最大限に引き出す



データ活用・
高度な分析

自動化および
ロボット活用の拡大

拡張現実および
バーチャルリアリティの
融合

専門技術者との連携



2018～2023年度で
製造能力を65%以上増加

プロセス効率の
継続的な向上

稼働停止期間の短縮

従業員の安全確保・体験の充実

品質管理の充実

効率性の向上・コスト削減

分離



精製



充填・完成



包装・供給

持続可能性に焦点をあてながら事業目標を達成 CO2、水、廃棄物に関する意欲的な目標を通じ業界の新基準を設定



- ウィーン、リエティ、ピサは、再生可能電力を100%活用
- Virtual Power Purchase Agreement (VPPA) スキーム活用による米国全拠点への再生可能エネルギー導入の検討

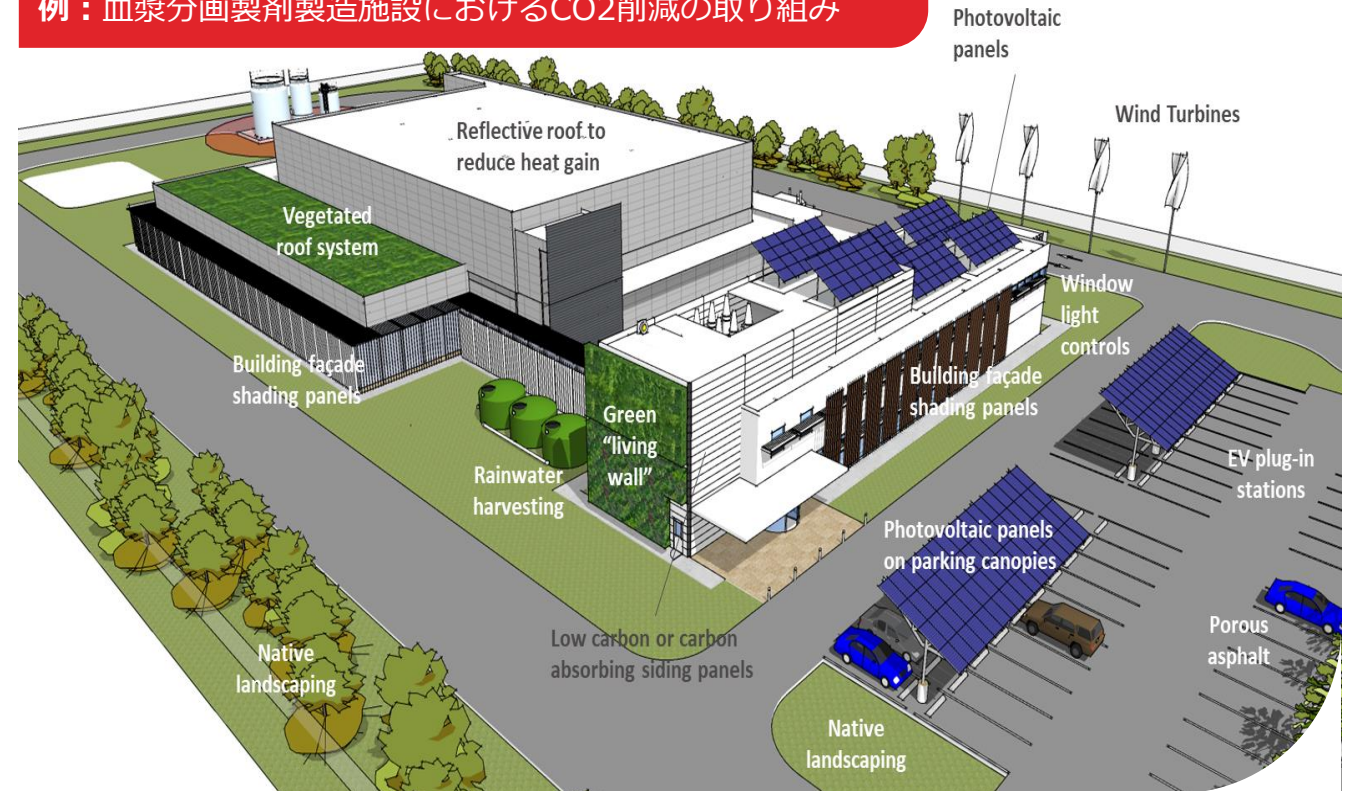


- ベルギーで初めて廃水の90%を再利用した医薬品の製造工場
- コビントン工場の冷却システムは、水道水ではなく廃水を使用



- 欧州拠点では、廃棄物の埋立処分ゼロを達成
- ロサンゼルス工場では、廃棄物の70%を埋立処理以外で処理

例：血漿分画製剤製造施設におけるCO2削減の取り組み



グローバルで
2025年度までに

水の使用量を5%削減*

CO2排出量40%削減**

廃棄物の90%かそれ以上を
埋立以外で処理

*2019年度ベースラインと比較

**スコープ 1: 直接排出（自社施設における化石燃料の燃焼） オンサイトでの燃料の燃焼、会社所有の車両、施設内の機器などの会社所有または制御された発生元からの直接排出、
スコープ 2: 間接排出（購入した電力・上記の使用による） 購入および消費した電力、熱、および当社施設に供給される第三者の蒸気から生じる間接的な温室効果ガスの排出、2016年度ベースラインと比較

パンデミック禍における当社の安定性は、より多くの患者さんの命を救うための最善の方法に向け、新たな姿勢と考えをもたらす



- ➡ すべての供給コミットメントを満たしながら、治験薬を記録的な速さで製造
- ➡ 製造体制における困難を打ち勝つ
- ➡ 変革や能力構築を加速
- ➡ 目標の超過達成
- ➡ チームの活性化および目的意識の強化



患者さんのための革新的な ケアソリューションの推進

プラズマ ディライブド セラピーズ R&D ヘッド
クリステナ・アリクメッツ



Better Health, Brighter Future

A woman with short dark hair, wearing a light blue button-down shirt and denim overalls, is kneeling in a garden. She is wearing green gardening gloves and using a pair of green-handled pruning shears to trim a plant with orange and green peppers. The background is a soft-focus garden scene.

ハンナさん

慢性疾患の治療を生活の一部として取り入れ、
今よりも疾患とうまく付き合っていくにはどうすれば
よいのでしょうか？

A man in a light green polo shirt and grey shorts is smiling and running on a grassy field. A young boy in a blue t-shirt and dark shorts is also running, looking towards the man. A soccer ball is on the grass in the foreground. The background shows trees and a bright sky.

エドワードさん

現在可能な最善の治療は複雑であり、
息子の治療として成功しないかもしれない。
**血漿に含まれるタンパク質は、
既存の治療にはないような効果的な治療の機会
を彼にもたらしてくれるのでしょうか？**

エンド・ツー・エンドのバリューチェーン全体にわたり、 研究開発がイノベーションを推進

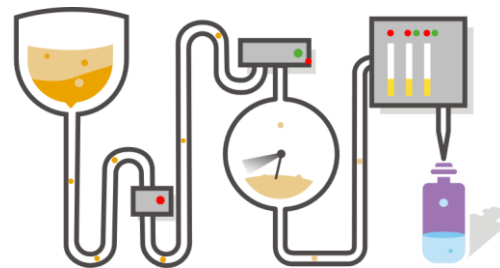


ドナー

血漿収集



製造



ポートフォリオ



患者さん

事業運営
および供給



ドナーの採漿体験を高める ために技術を活かす

- 初期段階のデバイス
開発プロジェクト

製造工程の改善および 新製剤の開発

- Facilitated-20% 皮下
注用免疫グロブリン製剤
(SCIG) (TAK-881)
- Aralast超低用量製剤
(TAK-883)

新たなタンパク質ベース の治療法を同定・開発

- バイオマーカーの開発、
患者さんの層別化
- 新たな血漿タンパク
および分画を同定
- 革新的な併用療法

完全なケアソリューション の開発および 患者さんのアクセス拡大

- 適応拡大、地理的拡大
- ペイシェント・エクスペリ
エンスを高めるための
統合されたデバイス/技術
ソリューション

患者さんに自分らしい生活を送っていただくための ヘルスケアソリューションの開発



血漿分画製剤



高度に差別化され、進化した
20を超える製品ポートフォリオ

PDT+デバイス+アクセス



HyHub AVA

治療薬のデリバリーを高めるための
革新的なデバイス

接続されたケアプラットフォーム



統合された
ケアソリューションプログラム

パイプラインおよび幅広い治療薬ポートフォリオが、 当社の戦略を実現



短期				長期	
TAK-771 HYQVIA (Halozyme) MMN : 欧州	TAK-662 CEPROTIN 適応拡大: EU	TAK-662 CEPROTIN SCPCD : 日本	TAK-330 PROTHROMPLEX TOTAL デバイス・新規提案	TAK-330 PROTHROMPLEX TOTAL 新規適応症 : 米国	TAK-882 Inter-α阻害 タンパク質 (ProThera) NEC、敗血症
TAK-771 HYQVIA (Halozyme) 小児PID : 米国	TAK-883 ARALAST A1ATD: EU	TAK-666 FEIBA 減量製剤	TAK-883 ARALAST 超低用量製剤	TAK-883 ARALAST 新規適応症	前臨床候補
TAK-771 HYQVIA HyHub (Flextronics); 米国・欧州	TAK-771 HYQVIA HyHub Duo (Flextronics); 米国・欧州	TAK-771 HYQVIA (Halozyme) CIDP : 米国・欧州	TAK-771 HYQVIA (Halozyme) PID、SID : 日本	TAK-771 HYQVIA (Halozyme) CIDP、MMN : 日本	前臨床候補
TAK-664 CUVITRU PID、SID : 日本	TAK-339 GAMMAGARD LIQUID CIDP : 米国	TAK-880 Low IgA-IVIG PID : 米国	TAK-880 Low IgA-IVIG PID : 米国	TAK-881 20% SCIG (Halozyme)	早期デバイス開発 プロジェクト
早期デバイス開発 プロジェクト				統合ケア ソリューション・ プログラム	

プラットフォーム
バイオマーカーおよび新薬探索のための プラズマプロテオミクス
製薬科学
統合されたケアソリューション
血漿と医薬品の併用療法

略語 :

A1ATD=α-1アンチトリプシン欠乏症、CIDP=慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー、
Ig=免疫グロブリン、MMN=多発性運動ニューロパチー、NEC=壊死性腸炎、
PID=原発性免疫不全症、POC=ブルーフ・オブ・コンセプト、SC=皮下投与、
SCPCD=重症先天性プロテインC欠乏症、SCIG=皮下投与免疫グロブリン、
SID=続発性免疫不全症

凡例

ファースト・
リットル

ラスト・
リットル

BioLife

統合ケア

前臨床/POC前
(パートナー)

注 : 短期は2024年度末まで、長期はその後の2025年度以降の承認目標として示しています。一部のプログラムでは、米国食品医薬品局 (FDA) によるIND前の相談および将来的なINDの承認が必要で、表示されているすべての項目は規制当局の承認が必要となります。

表は研究開発マイルストンの一部を示したものであり、包括的なものではありません。すべてのタイムラインは、2021年11月17日時点での見込みであり、変更される可能性があります。

幅広いポートフォリオの可能性を最大限に引き出すとともに、 地理的拡大および適応拡大を通じて患者さんに貢献



ライフサイクルマネジメントによる成長促進*

ラスト・
リットル



ファースト・
リットル



- 欧州における、**TAK-771**の幅広いSIDの適応取得（2020年9月）
- **TAK-771** CIDP試験の被験者登録完了（2021年度下期データ読み出し）
- 米国において、2021年度下期に**TAK-771**の小児適応での申請予定
- 米国・欧州にて、2021年度下期に**TAK-771 HyHub AVA**の申請予定
- 免疫グロブリンポートフォリオおよび**TAK-662**の**日本への事業拡大**（2021年度下期にピボタル試験を開始）
- **TAK-330** DOACリバーサル適応（2021年度下期 臨床第3相試験開始）
- **Feiba STAR**試験が完了間近（TAK-666）

新規製剤によるリーチの拡大

ラスト・
リットル

TAK-881

TAK-880

ファースト・
リットル

TAK-882

前臨床候補

前臨床候補

- TAK-881
 - ファースト・イン・ヒューマン試験を2021年度に開始（2021年10月に最初の被験者登録（FSI）達成）
- TAK-882
 - 2021年度に非臨床試験のデータ読み出し

抗FcRnのような新しい治療法は希少自己免疫疾患領域に参入すると見込まれるが、免疫グロブリン製剤のユニークな利点によって代わる可能性は低い



CIDPは不均一性を示すことや明確なマーカーがないことから、現在の治療は、疾患の経過および重症度に応じて実施

免疫グロブリン製剤は引き続きCIDPの1次治療法であると想定

- 多面的、幅広い抗炎症・免疫調整性の作用メカニズム
- 幅広く、なおかつ増加している層の患者さんに有効
- 十分に確立された有効性および安全性プロファイル（50年以上）



CIDPが不均一性を示す疾患であるため、新規標的製剤（抗FcRn）が完全に免疫グロブリン製剤にとって代わるという可能性は低い

抗FcRn製剤は、一部のCIDP患者さんにとって、優れたイノベーションとなる可能性

- 作用メカニズム；1つの特定の経路にフォーカス
- 奏効例は限定的である可能性
- 長期有効性および安全性はまだ確立していない

CIDP = 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、FcRn = 胎児性Fc受容体



当社のプロテオミクスプラットフォームは、 現在および将来の患者さん集団に対する個別化治療の基盤となる



定量的プロテオミクスプラットフォーム



血漿タンパク質の
生理学的役割を
より深く理解することで、
これらの製剤を新たな
方法で新たな疾患に
活用することが可能に



30以上の戦略的提携を通じたネットワークにより、イノベーションを加速

アカデミック

テクノロジー

コマーシャル

専門家および
患者団体

タケダ
社内グループ

 **BIOGNOSYS**
NEXT GENERATION PROTEOMICS

**BOSTON
UNIVERSITY**

 **EARCO**
European Alpha-1
Research Collaboration

 **Massachusetts
Institute of
Technology**

 **Halozyne**

**ID
EO**

Isth*
International Society on
Thrombosis and Haemostasis

 **KAMADA**

 **Penn**
UNIVERSITY of PENNSYLVANIA

 **Pneuma**
Systems Corporation

 **PreviPharma**

 **ProThera
Biologics**

 **RUTGERS**
THE STATE UNIVERSITY
OF NEW JERSEY



**UNIVERSITY OF
COPENHAGEN**



 **TRIBE.ONE**

 **WFH**
WORLD FEDERATION OF HEMOPHILIA
FÉDÉRATION MONDIALE DE L'HÉMOPHILIE
FEDERACIÓN MUNDIAL DE HEMOFILIA

注：代表例であり、網羅的ではありません。
*当社は国際血栓止血学会（ISTH）の活動を支援

研究開発の成功により、患者さんのための血漿分画製剤の可能性を最大限に引き出す



以下により左記項目を実現



ポートフォリオを
推進



バリューチェーン
全体での
イノベーション



提携ネットワークの
拡大



明確に定義された
成長戦略



**PDTに限定した
研究開発費**
(2023年度までに、
PDTの研究開発費の30%以上を
新規プログラムに費やす)



165+

血漿にフォーカスし
独立した
研究開発チーム



タケダの
グローバルR&D
と連携





患者さんと 株主のための価値創造

プラズマ ディライブド セラピーズ
チーフ フィナンシャル オフィサー
ラミー・リアド



Better Health, Brighter Future

血漿分画製剤のバリューチェーン全体で取り組み、 長期的な成長および利益率向上の基盤を構築



投資と戦略の実行により、
患者さんにフォーカスした**評価される**
持続可能な事業基盤を構築し、
イノベーションと持続可能性を通じ、
患者さんの人生を変革するという
理念を追求することが可能に

+56%

新規センターの増加
2018年度～
2021年度上期



+40%

製造設備容量の増加
2018年度～現在



100%

米国のセンターでは、
DISクラウドへ移行



3%

IGプロセス効率改善
2018年度～現在



>40

PDTビジネスユニット
発足以降に上市した
国・製品数



12%

米国のIG数量
CAGR
2018～2020年度

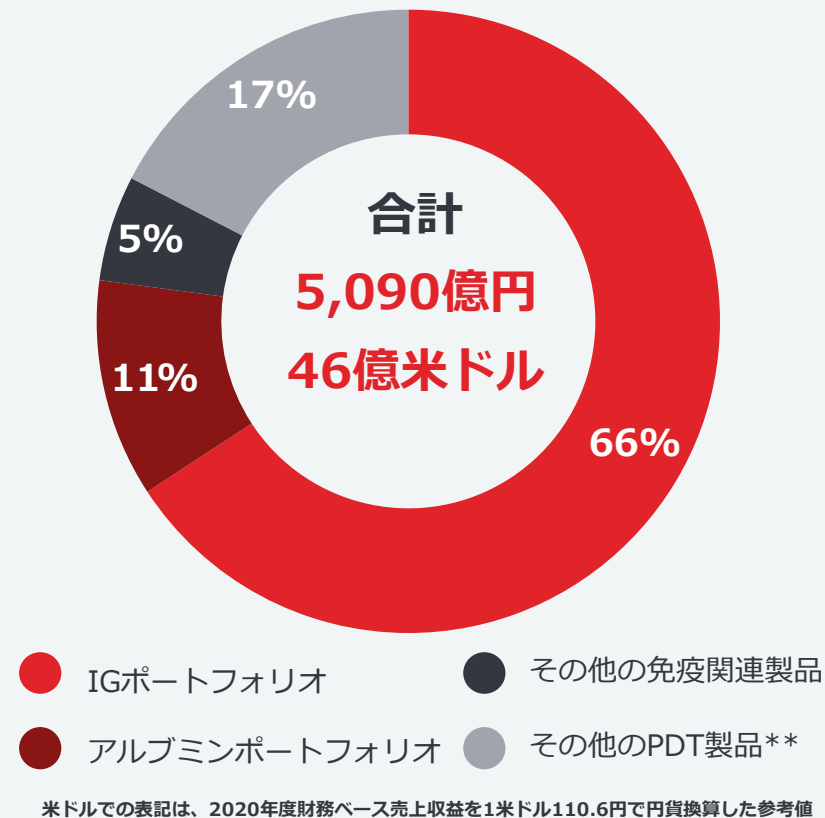


構築した基盤により、ポートフォリオ全体における 実質的な売上収益成長*を可能に



地域拡大および適応拡大により
一貫して実質的な成長が加速

PDTビジネスユニット 2020年度売上収益



*実質的な売上収益成長の定義については、53ページをご参照下さい。

**他のPDT製品としては、Feiba、Cinryze、Hemofil/Immunate/Immunine、Prothromplex、第VII因子、血漿収集、他の血友病、他の阻害剤、アルブミン酸塩、Bebulin、およびPPSBなどを含みます。

***2020年度アルブミン・ポートフォリオの実績は、2020年度下期の中国におけるアルブミンGlassの一時的な出荷中断の影響による。

実質的な成長

製品群	2018年度 Pro Forma	2019年度	2020年度
PDT合計		+3%	+6%
IGポートフォリオ		+7%	+16%
Cuvitru HyQvia		+13%	+21%
GAMMAGARD LIQUID / Kiovig		+6%	+19%
アルブミン・ポートフォリオ		+20%	△13%***
Flexbumin (Human Albumin)		+9%	+37%
その他の免疫関連製品		+7%	+1%
その他のPDT製品		△16%	△8%

このマークは、当社のグローバルブランド14製品であることを示します。

注：売上収益の絶対値は国際会計基準（IFRS）（財務ベース）で表示します。対前年比は実質的な成長率で、2019年度対2018年度pro-forma、2020年度対2019年度。

2018年度pro-formaは、2018年度「（2018年4月-2019年3月）の武田薬品売上収益（事業売却を調整）と、2018年度の年間平均レート（111円/米ドル）で円貨換算し、米国会計基準（US GAAP）から国際会計基準（IFRS）に組み替えた（なお、重要な差異は認められなかった）2018年4月から買収完了日（2019年1月8日）までの旧Shire社売上収益（事業売却等を調整）の合計。

責任ある血漿収集および在庫管理が、免疫グロブリンの成長を支える



	2019年度	2020年度	2021年度見込み**
IG ポートフォリオ 実質的な売上収益 成長率* 	+7%	+16%	+5-10%
血漿収集量 成長率  +サード パーティ	+13%	△ 11%	+15-25%

成長ドライバー

能力拡大、運営効率化、変革

タケダの価値観に基づいた優先事項 : Patient Trust Reputation Business

*実質的な売上収益成長の定義については、53ページをご参照下さい。

**財務ベース売上収益の見込みを示し、2021年度通期の売上収益成長ガイダンスに沿っています。

当社の戦略およびイノベーション主導のカルチャーが、さらなる業績の成長を推進



逆風の中においても、戦略およびイノベーションの推進を反映した2021年度業績

2021年度上期 実質的な売上収益成長率*



2021年度 実質的な売上収益成長率*ガイダンス

「一桁台半ば」

10-20%

5-10%

>30%

投資

- 長期的には、血漿中に存在する未活用の治療薬になり得る成分を見出すための革新的な探索活動にフォーカス
- 患者さんにとっての価値や成長を最大限に引き出すための、適切なタイミングでの投資

売上収益成長率

- ラスト・リトルの成長が牽引し、力強い勢いが継続する見込み
- 短期的なポートフォリオの毀損を効果的に抑制し、地理的拡大と研究開発により、長期的な成長を期待

利益率向上

- 拡大中のネットワークは、稼働率の向上および効率化によって利益率が改善
- デジタルプロセスの改善および運営効率化の取り組みにより、収集量の減少は限定的
- ドナー費用および製造原価の管理



クロージング

プラズマ ディライブド セラピーズ
プレジデント

ジュリー・キム



Better Health, Brighter Future

患者さんのニーズと血漿エコシステムを
深く理解することにより、継続的な成長を実現

価値をもたらすための
データおよびデジタルの活用

ドナーの採漿体験の充実
ドナーの獲得と維持

供給に対する信頼を得るために**生産能力を拡大**

血漿からの成分収集量の最大化・効率化推進
のための製造ネットワークの最適化

イノベーションを推進する
変革的な研究開発への投資

より多くの患者さんに貢献するため
幅広いポートフォリオの最大化



当社の多様なチームは、当社の価値観に基づきながら、
血漿に関する深い知識および幅広い専門性と経験を持つ



ジュリー・キム
プラズマ ディライブド
セラピーズ ビジネスユニット
ヘッド



チャーリー・アレキサンダー
ビジネス
ディベロップメント



クリステナ・アリクメッツ
R&D



リンダ・コプラン
HR



ロブ・デ・ウィズ
EU・カナダ
デマンド・エクセレンス
&ペイヤー・バリュー



バーバラ・グランツニグ
グローバルクオリティ



デボラ・ヒベット
コミュニケーション
・パブリック
アフェアーズ



イングリッド・ホフストロム
エグゼクティブ
アシスタント



トーマス・クレイル
パソジェンセーフティ



レムコ・レマルク
リーガル



デイナ・メンデンホール
ストラテジー&
マーケティング



ブランドン・モンク
USビジネスユニット



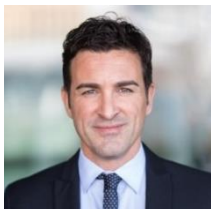
エイドリアン・マーフィー
グローバルマニュファク
チャリング・サプライ



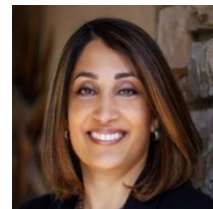
リンダ・ペラルタ
エシックス&
コンプライアンス



ラミー・リアド
ファイナンス



ガブリエル・リッチ
IT



ヘマ・トールマン
BioLife



アラン・ウォルシュ
グローバルプロダクト&
ローンチストラテジー



エミリー・ウェルチ
チーフオブスタッフ



コルネリア・ザネッティ
成長・新興国市場

血漿分画製剤事業は、
当社の成長を促進する重要なドライバー



16%

2020年度財務ベース
全社売上収益に占める割合



タケダの価値観

に基づく



共通の目標

に向かって取り組む



**世界中の人々の健康と
輝かしい未来に貢献する**

Q&A



当社は、事業の計画策定および業績評価において、「実質的な成長」（Underlying Growth）の概念を採用しております。

「実質的な成長」は、当年度と前年度（四半期もしくは年間）の業績を共通の基準で比較するものであり、マネジメントによる業績評価に使用されています。これら共通の基準で比較される業績は、年間計画レートを用いた為替レートを一定として、事業等の売却影響およびその他の非定常的もしくは特別な事象に基づく影響、本業に起因しない事象（非中核）による影響を控除し算定されます。当社は、この「実質的な成長」が、事業活動のパフォーマンスを表す共通の基準を提供するため、投資家に有用であると考えています。なお、本指標は、国際会計基準(IFRS)に準拠したものではありません。

略語の用語集（アルファベット順）



A1ATD	α1アンチトリプシン欠損症
BU	ビジネスユニット
CAGR	年平均成長率
CapEx	資本的支出
CIDP	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎
DIS	ドナー情報管理システム
DOAC	直接作用型経口抗凝固薬
EMA	欧州医薬品庁
FcRn	胎児性Fc受容体
FDA	米国食品医薬品局
FSI	最初の被験者登録
IG	免疫グロブリン
IgG	免疫グロブリンG
IgA	免疫グロブリンA
IIM	特発性炎症性筋障害

ITP	特発性血小板減少性紫斑病
IVIG	静注用免疫グロブリン
MG	重症筋無力症
MMN	多巣性運動ニューロパチー
MOA	作用機序
PID	原発性免疫不全
PDT	血漿分画製剤
POC	プルーフ・オブ・コンセプト（概念実証）
RAID	希少自己免疫疾患
R&D	研究開発
SCIG	皮下注用免疫グロブリン
SCPCD	重症先天性プロテインC欠乏症
SID	続発性免疫不全



エンド・ツー・エンドのイノベーションにより 成長を推進



2021年11月18日（日本時間）
2021年11月17日（米国東部時間）

Better Health, Brighter Future